

1 総評

今年度より生徒1人1台端末の貸与や、多様化を認める社会変化に対応して生徒の一部の設問を変更している。生徒向けでは問19「学校は、生徒1人1台端末を有効に活用している」、教員向けに問5「この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」が追加された。

2 アンケート結果の分析

(1) 生徒へのアンケート

- ・殆どの設問について、肯定的な評価が昨年度を上回っている。
- ・問1「自分のクラスは楽しい」、問2「学校授業はわかりやすい」、問10「文化祭や体育祭など授業以外の学校行事に参加するのは楽しい」、問11「りんくう翔南高校の生徒会活動は活発である」、問13「学校で命と人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」、問15「教室・運動場などは、授業等の活動がしやすいように整備されている」、問17「自分は、授業や部活動で地域の人や近隣の学校と係わる機会が多い」、問20「先生は、いじめについて自分が困っていることがあれば真剣に対応してくれる」については10%を超える数値上昇があった。特に問10「文化祭や体育祭など授業以外の学校行事に参加するのは楽しい」については、63.7%→80.4%と大幅に数値上昇している。コロナ禍により昨年度は学校行事だけに限らず、普段の学校生活にも大きな制限があった一方、今年度はほぼコロナ禍前と同じ形で学校行事で実施できたことが要因と考える。QOLを高めるために集団生活を体験することは重要であり、何より問1「自分のクラスは楽しい」と感じている生徒が増加していることは学校としても喜ばしい結果である
- ・問7「担任の先生以外にも保健室や相談室で気軽に相談することができる先生がいる」については唯一肯定的な評価が減少している。学校生活が正常化することが人間関係の構築が苦手な生徒にとって負担になっているケースや、コロナ禍の影響で家庭環境に変化がある生徒もあり、SCの相談件数や保健室来室が増加している。さらに教員などに相談ができていない生徒が一定数いると想定して今後もアンケートを高く張り、生徒の状況を観察し、声掛けを継続する必要がある。

(2) 保護者へのアンケート

- ・昨年度から大きく肯定的な評価が増えたのは、問10「子どもは文化祭や体育祭など授業以外の学校行事

に楽しんで参加している」63.6%→74.5%、問13「子どもは学校で、命と人権の大切さや社会のルールについて学んでいるようだ」63.0%→73.9%の2項目。やはり、学校行事が再開したことで、学校生活について家庭で話す機会が増えていることが推察できる。学校生活の充実が家庭環境の良化にも寄与していること考える。また、人権教育についても、昨年度まで難しかった体育館に集合しての外部講師からの講演や、ICTを活用した各教室でのオンラインによる講演など、さまざまな形態で多様性を学ぶ機会を提供している。生徒が普段見せない涙を流しながら熱心に話を聞き、これまでの自分の言動について見直す旨を感想文中に記述をしていた。一人でもこういった生徒を増やすために今後も継続していく。

- ・問2「子どもにとって授業はわかりやすいようだ」、問5「りんくう翔南高校では、服装や頭髪の指導がきちんとされている」については8%以上肯定的な意見が減少している。これまでの授業計画や既存の教材では学習補償ができないケースや、特性に応じた生徒指導が求められるケースが増えており、個々の生徒の状況をきめ細かく把握する力や柔軟に対応することが今後一層求められる。